



2012年6月

「リオ+20」ジャパンパビリオン実行委員会

国連持続可能な開発会議(リオ+20)の サイドイベントに、ジャパンパビリオンを出展

～官民協働のオールジャパンにより、日本のポテンシャルと貢献を世界に発信～

「リオ+20」ジャパンパビリオン実行委員会は、2012年6月にリオデジャネイロ(ブラジル)で開催される「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」のサイドイベントに、官民協働のオールジャパンによる「ジャパンパビリオン」を、6月13日(水)から24日(日)まで出展します。

「リオ+20」は1992年に同地で開催された「地球サミット」から20年を迎えた節目に、今後10年の経済、社会、環境のあり方を議論する国連会議です。本会議には約130ヶ国から首脳級の参加が予定され、この期間に並行して行われる政府、NGOなどのイベントと合わせて約5万人の参加が見込まれています。

日本は、“持続可能な開発”に関する日本のポテンシャルと貢献を世界に示すことを目的として、本会議場に隣接するサイドイベント会場において政府、企業、自治体など官民協働のオールジャパンの「ジャパンパビリオン」を出展する運びとなりました。

「リオ+20」ジャパンパビリオンには、“震災からの復興と強靱な社会づくり”、“日本の環境技術・グリーンイノベーション”、“世界の持続可能な開発に向けた日本の貢献”をメッセージとして込め、東日本大震災からの復興に対する取り組み、環境分野における日本の経験と技術などについて展示スペースで紹介するほか、本会議初日の6月20日をジャパンデーとして、東北の復興と魅力を紹介するイベントを開催します。

◆名 称	「リオ+20」ジャパンパビリオン(欧文表記：Rio+20 Japan Pavilion)
◆開催期間	2012年6月13日(水)～24日(日) 11時～19時(土日は10時～19時) ※6月20日～22日の入場は、「リオ+20」本会議参加登録者に限る。
◆会 場	アスリートパーク(「リオ+20」の本会議場となるリオセントロ会議場に隣接)
◆主な対象	「リオ+20」本会議参加者(各国政府関係者、国連関係者、NGOなど)、報道関係者、企業、ブラジル国内をはじめとする関係者、ブラジル国民 など
◆主 催	「リオ+20」ジャパンパビリオン実行委員会 委員長 広中 和歌子
◆基本的な考え方	“持続可能な開発”に関する日本のポテンシャルと貢献をオールジャパンで世界に示す
◆メッセージ	震災からの復興と強靱な社会づくり 日本の環境技術・グリーンイノベーション 世界の持続可能な開発に向けた日本の貢献

—本資料に関する報道関係者の問い合わせ先—

「リオ+20」ジャパンパビリオン実行委員会(財団法人 水と緑の惑星保全機構内)

[担当:田上(たのかみ)・桐山・遠藤]

TEL:03-3509-9733 FAX:03-6206-1125 E-mail:rio20@mizumidori.jp (代表)

<「リオ+20」ジャパンパビリオン・コンセプト>

JAPAN GREEN INNOVATION ～復興への力、世界との絆～

昨年3月、日本は東日本大震災、そして津波により大きな被害を受けました。

この国難から、以前と同じ状態に「復旧」するのではなく、これを機に持続可能な社会へと「復興」していこうという機運の高まりに応えるには、グリーンイノベーションが大きな力となるはずです。鍵となる環境技術や省エネ技術は、まさに日本が世界をリードしてきた分野です。

日本にしかできないこと。日本だからこそできること。

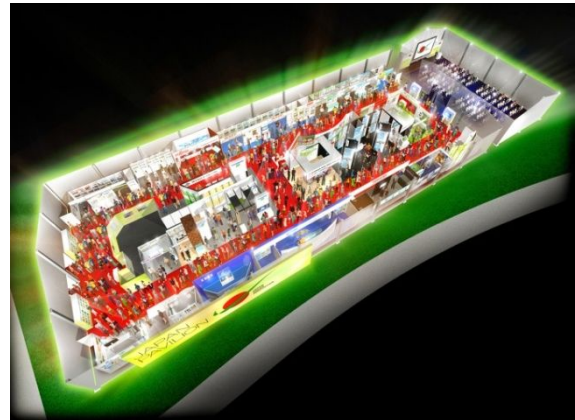
私たちは独自の技術力と経験で磨いてきたグリーンイノベーションで、世界の持続可能な開発に貢献していくことにより、国と国、人と人の絆をより強く、深くしていきたいと思えます。

<「リオ+20」ジャパンパビリオン・ロゴ>



赤の丸は日本を、緑のラインは葉っぱをモチーフにした「グリーンイノベーション」を象徴化したデザインです。右上に伸びていく緑のラインで、力強い日本の復興への希望と、その先にある世界への展望のイメージを表しています。

<「リオ+20」ジャパンパビリオン・イメージパース> ※左は外観イメージ、右は内観イメージ。



<「リオ+20」ジャパンパビリオン・出展者一覧>

【官公庁】

外務省・環境省・経済産業省・農林水産省・内閣官房・文部科学省・国土交通省/国土地理院

【自治体】

東京都・滋賀県・横浜市・北九州市

【企業/団体/研究機関など(50音順)】

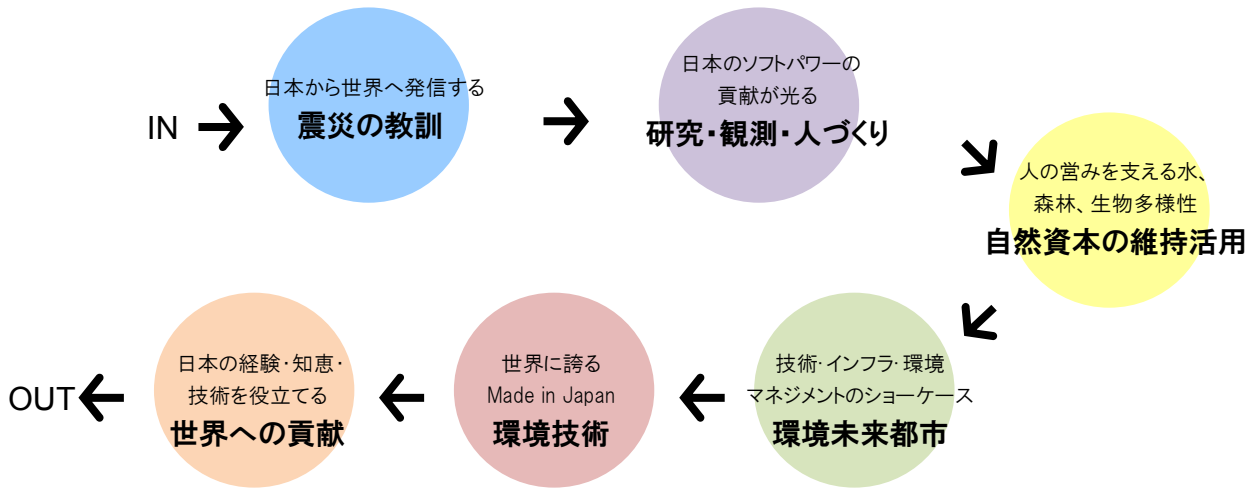
株式会社 IHI・公益財団法人 旭硝子財団・味の素 株式会社・国際湖沼環境委員会(ILEC)
 独立行政法人 国際協力機構(JICA)・国際熱帯木材機関(ITTO)・国際環境技術センター(IETC)
 国際連合工業開発機構(UNIDO)・国連開発計画(UNDP)・国連環境計画(UNEP)
 国連大学 サステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)・独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
 地球環境行動会議(GEA)・地球観測に関する政府間会合(GEO)・創価学会インタナショナル(SGI)
 公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)・株式会社 東芝・戸田建設 株式会社・日本水産 株式会社
 パナソニック 株式会社・株式会社 BGCT・富士通 株式会社・株式会社 フルッタフルッタ・三井物産 株式会社
 三菱重工業 株式会社・三菱商事 株式会社

<「リオ+20」ジャパンパビリオン・協賛者一覧>

鹿島建設 株式会社・株式会社 小松製作所・積水化学工業 株式会社・大成建設 株式会社・株式会社 日能研
 株式会社 日経BP社

6つのゾーンで構成される展示スペース

「リオ+20」ジャパンパビリオンは、1,000平方メートルの「展示スペース」、200平方メートルの「多目的スペース」で構成されています。展示スペースは、「震災の教訓」「研究・観測・人づくり」「自然資本の維持活用」「環境未来都市」「環境技術」「世界への貢献」の6つのゾーンから構成されます。



<展示スペース/ゾーニング>

震災の教訓

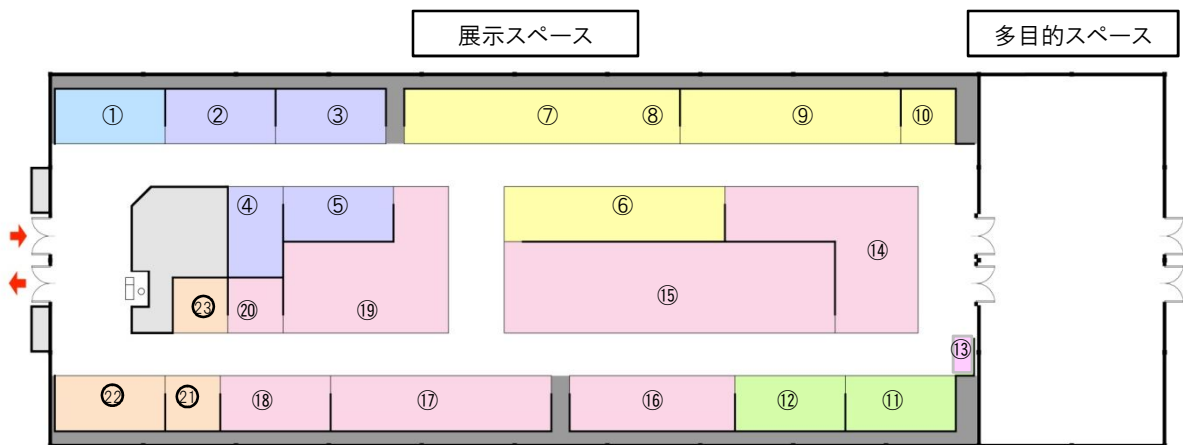
- ① 外務省

研究・観測・人づくり

- ② 文部科学省/地球観測に関する政府間会合(GEO)
- ③ 富士通
- ④ 経済産業省
- ⑤ 三井物産

自然資本の維持活用

- ⑥ 味の素
- ⑦ 農林水産省
- ⑧ フルッタフルッタ/日本水産
- ⑨ 環境省
- ⑩ 滋賀県/国際湖沼環境委員会



世界への貢献

- ⑲ 旭硝子財団
- ⑳ 国際協力機構(JICA)
- ㉑ 地球環境戦略研究機関(IGES)

環境技術

- ⑬ BGCT
- ⑭ 国際連合工業開発機関(UNIDO)
- ⑮ 三菱商事/三菱重工業
- ⑯ 東芝
- ⑰ 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)
- ⑱ IHI
- ⑲ パナソニック
- ⑳ 戸田建設

環境未来都市

- ⑪ 東京都
- ⑫ 横浜市/内閣官房

「出展スペース」の概要

「リオ+20」ジャパンパビリオンの展示スペースでは、「リオ+20」本会議参加者、報道関係者、企業、ブラジル国内をはじめとする関係者、ブラジル国民などに向けて、東日本大震災からの復興に対する取り組み、環境分野における日本の経験や技術などを紹介します。

— 震災の教訓 —

・ 外務省

「東北復興—明日への力」と題して、東北の魅力や復興の様子を紹介する写真、被災3県の知事からのメッセージの展示、復興や日本の多面的魅力を紹介する映像の上映を行います。

— 研究・観測・人づくり —

・ 文部科学省/地球観測に関する政府間会合(GEO)

全球地球観測システム(GEOSS)は、持続的、かつ総合的に調整された地球観測システムです。展示では、GEOSSの活動とグリーン経済への貢献を紹介します。

・ 富士通株式会社

気候変動や資源制約といった人類の課題解決に向けたICTの貢献について、世界最高速のスーパーコンピュータ「京(kei)」のポテンシャルを中心にご紹介します。

・ 経済産業省

経済産業省は、世界の持続可能な発展に貢献する技術、サービス、ノウハウなどを提案します。また、持続可能な未来に向けて、日本からの提言をお届けし、世界のみなさんの提言を募集します。

・ 三井物産株式会社

三井物産では、東日本大震災からの復興支援、基礎教育支援、地球環境や貧困問題の解決など、持続可能な社会の発展に貢献することを旨とした当社の活動を紹介します。

— 自然資本の維持活用 —

・ 味の素株式会社

味の素グループは宣言します: Good eating = Green eating Creating a food-future good for people, good for the earth. 70億人の「食」を変えると、きっと世界は変わるはず。「食の未来」を創る取り組みを、ブラジルの最新事例も交えてご紹介します。

・ 農林水産省

「自然からの贈り物～みんなで守り活かす森・里・海～」をテーマに、森林、里山、里海などの自然資本を守り活かす農林漁業者や企業等の取組について、パネル展示、DVDの上映等を実施します。

・ 株式会社フルッタフルッタ

「森をつくる農業」と呼ばれるアグロフォレストリー農法の生産者であるCAMTAとのパートナーシップにより、フルッタフルッタは、BOP層と先進国市場および経済を活性化しながら自然資本の生産性を高めるマーケティングプログラムを紹介します。

・ 日本水産株式会社

世界人口が増加する中、食料供給の重要な要素の一つとして水産養殖が注目されています。しかし養殖にも種々の課題があります。こうした課題に対するニッスイの取組を紹介します。

・ 環境省

グリーン経済、ESD(持続可能な開発のための教育)、3R、生物多様性、公害経験、GOSAT(温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」)に関する展示を行います。

・ 滋賀県/国際湖沼環境委員会(ILEC)

滋賀県は、琵琶湖保全に取り組んできた経験や政策を紹介します。国際湖沼環境委員会は、湖沼とその流域のガバナンスの強化を提唱する「統合的湖沼管理(ILBM)」を広報します。

—環境未来都市—

・東京都

東京都は、世界初の都市型キャップ&トレード制度やグリーンビルディングプログラムをはじめ、多くの先進的な施策による、持続可能な都市モデルをご紹介します。

・横浜市

横浜市は、低炭素、超高齢化などの社会的課題に対応しながら都市の活力を生み出す「環境未来都市」の実現をめざし、これからの時代に必要新しいシステムやサービスを創り出そうと進めている取組みを紹介します。

・内閣官房

環境・超高齢化対応に向けた、環境価値、経済的価値、社会的価値を創造する人間中心の都市、「環境未来都市」構想を紹介します。

—環境技術—

・株式会社BGCT

BGCT K.K. は、RPPWF™と呼ばれるGHG(CO2)のゼロエミッション／カーボンニュートラルを目的とし、生物多様性の原材料によって創られた持続可能な低炭素エネルギー(植物燃料)を紹介します。

・国際連合工業開発機関(UNIDO)

UNIDOは、グリーン産業への取組みを紹介すると共に、日本企業6社の優れた環境関連技術を企業代表者と共に紹介します。また、会期中、日本企業6社の環境関連技術をビデオでも会場で紹介します。

・三菱商事株式会社

スマートコミュニティ、水産業、太陽光発電、排出権、CSR活動等環境への取組をパネルで紹介すると共に、電気自動車が変わる新しい暮らしを「i-MiEV」を使って紹介します。

・三菱重工業株式会社

三菱重工業は、エネルギーの安定供給と環境負荷の削減を両立させる多様な分野の技術・製品を保有する世界に類を見ない企業として、低炭素社会の実現へ向けた総合的なソリューションを紹介します。

・株式会社東芝

東芝は、“個”の快適性と持続可能な“街”を両立するスマートコミュニティを紹介します。当社のスマートコミュニティ構想、実証事例、それを支えるシステム、技術を展示します。

・独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)は、エネルギー・環境分野や産業技術分野などでの優れた日本の技術とその普及拡大に向けた取組みを御紹介いたします。

・株式会社IHI

IHIは、再生可能エネルギー分野の先駆者として、日本政府や大学、民間企業と共同で実証実験に取り組んでいる海流発電を始め、洋上風力発電、海洋温度差発電などの再生可能エネルギーを中心とした事業を紹介します。

・パナソニック株式会社

ソーラー・蓄電池・エネルギーマネジメント機器、省エネ製品による創エネ・蓄エネ・省エネをつなぐシステム、及び藤沢サステイナブルスマートタウンプロジェクト、環境教育を紹介します。

・戸田建設株式会社

戸田建設は、低炭素社会に向けた様々な取組みを行っています。その中から、50の環境技術を組み合わせた環境最先端テナントビル「TODABUILDING 青山」を中心に紹介します。

—世界への貢献—

・公益財団法人旭硝子財団

旭硝子財団は、今年で21回目を迎える地球環境国際賞・ブループラネット賞や、地球環境の悪化に伴う人類存続の危機に関する認識を、時計の針で表す「環境危機時計R」を紹介します。

・独立行政法人国際協力機構(JICA)

JICAは日本のODA実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。今回の展示では我々の行っている持続可能な開発を目標とした車のリサイクル、廃棄物の減量技術の移転及び、森林保全のプロジェクトを紹介します。

・公益財団法人地球環境戦略研究機関(IGES)

公益財団法人 地球環境戦略研究機関(IGES)及び北九州市は、リオ+20に向けてのアジア太平洋地域における持続可能な開発に関する研究成果及び、都市に関する環境先進事例を紹介します。

「多目的スペース」の概要

「リオ+20」ジャパンパビリオンの多目的スペースでは、以下のセミナー、レセプション、展示等が予定されています。

日時	主催者名	タイトル/概要
6月13日(水)	SGI(創価学会インタナショナル)、地球憲章インタナショナル、 リオデジャネイロ市	・パネル展示「希望の種子展」 ・持続可能な開発のための教育推進のためのオープンスペース ・教育関連DVD上映会
6月14日(木)	リオ+20国内準備委員会	マルチステークホルダー・ダイアローグ 東日本大震災と津波から得た教訓:持続可能で回復力のある地域社会の構築
	三井物産株式会社	持続可能社会を目指す教育:教育機関と民間企業のパートナーシップによる貢献
	リオ+20国内準備委員会	マルチステークホルダー・ダイアローグ 東日本大震災と津波から得た教訓:持続可能で回復力のある地域社会の構築
	国連環境計画(UNEP)、国際環境技術センター(IETC)	チャンスは無駄にいませんか? グリーン経済へ廃棄物からより多くの資源やエネルギーへの転換を目指して
6月15日(金)	国連大学サステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)、 リオ+20 地球サミット NGO連絡会	持続可能かつ衡平な未来に向けたグリーン経済に関する対話: 日本の市民社会の視点から
	特定非営利活動法人エコ・リーグ、Campus Climate Challenge、 Climate Youth Japan	持続可能な未来の創造!日本とアジアにおける若者や大学の気候活動の 成功事例
	環境省、国連大学高等研究所(UNU-IAS)	グリーン社会構築に向けたマルチステークホルダーの学び
6月16日(土)	国際青年環境NGO A SEED JAPAN、 一般財団法人CSOネットワーク、福島県有機農業ネットワーク、 NPO法人「環境・持続社会」研究センター(JACSES)、 国連生物多様性の10年市民ネットワーク	地域再生や持続可能な開発、そしてグリーン経済に貢献する有機農業: 福島の事例から
	海外環境協力センター(OECC)、地球環境センター(GEC)、 地球環境戦略研究機関(IGES)	気候変動緩和に向けた二国間オフセット・クレジット・メカニズム(BOCM) に関する環境省の取り組み
	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	NEDO事業(省エネルギー・新エネルギー事業、スマートコミュニティ事業、 産業技術関連事業など)の紹介
	外務省、国連開発計画(UNDP)	低炭素開発の展開に向けたUNDPと日本政府の取り組み
6月17日(日)	国連大学サステナビリティと平和研究所(UNU-ISP)、 リオ+20 地球サミット NGO連絡会	日本の市民社会の取組み: 持続可能な地域づくりとSDGs(持続可能な開発目標)に関するメッセージ
	経済産業省	持続可能な開発に向けた経済界の取り組み
	公益財団法人 旭硝子財団	【記者発表】平成24年度(第21回)ブループラネット賞受賞者発表 【講演/討議】環境と開発への課題:緊急になすべき行動 (ブループラネット賞歴代受賞者による共同論文) 【レセプション】ブループラネット賞歴代受賞者との懇親会
6月18日(月)	国際協力機構(JICA) ブラジル事務所	ALOSIによるアマゾン森林伐採のモニタリング
	環境省、イオン株式会社、公益財団法人オイスカ、 経団連自然保護協議会、国連生物多様性の10年日本委員会	KIZUNA MESSAGE for Biodiversity
	環境省、 SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ(PSI)事務局 (国際連合大学高等研究所)	SATOYAMAイニシアティブとグリーンエコノミー
	国際熱帯木材機関(ITTO)、国際協力機構(JICA)	グリーンエコノミーへの移行に向けた熱帯林の活用
6月19日(火)	国際連合工業開発機関(UNIDO)	モンリオール議定書による気候変動の緩和
	地球環境戦略研究機関(IGES)	持続可能でレジリエントな(対応力のある)アジア太平洋地域の発展を目指して
	文部科学省、地球観測に関する政府間会合(GEO)	地球観測:人類の安全保障、環境、経済のための統合的アプローチ
6月20日(水)	環境省	ナレッジネットワークングセミナー: グリーングロースとは何か?ナレッジネットワークングの役割とは?
	外務省、環境省、地球環境行動会議(GEA)* *協力	セミナー「東日本大震災からの復興・教訓~持続可能な開発の観点から」 【第一部】「復興を通じた持続可能な社会づくり~日本の再生を世界とともに~」 GEA国際会議2011報告 【第二部】「東北の復興と持続可能な発展」 【第三部】ディスカッション・総括
6月21日(木)	外務省	ジャパンイブニング~TOHOKU FORWARD~
	環境省、国立環境研究所(NIES)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)	気候変動政策の鍵を握る温室効果ガス観測技術衛星GOSAT -その成果と今後の展開
	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	21世紀の課題解決に向けた日本の技術の貢献
	富士通株式会社	スーパーコンピュータ、および気候変動、資源の制約等の課題克服のための 社会的発展におけるスーパーコンピュータの役割
	国際連合工業開発機関(UNIDO)	UNIDOを通じてグリーン技術の海外普及をめざす日本企業との ネットワークング・セッション
6月22日(金)	内閣官房、横浜市、北九州市	「環境未来都市」構想と世界との連携 -日本における持続可能な都市づくりと成功事例の世界との共有-
	国土交通省	持続可能な開発のための地球地図及び総合的な水資源管理
	農林水産省、味の素株式会社、株式会社フルッタフルッタ	自然からの贈り物~みんなで守り活かす森・里・海~
6月23日(土)	ブラジル国際協力庁(ABC)、国際協力機構(JICA)	持続的開発への教訓と世界への貢献:ブラジル・セラード農業開発
	経済産業省	Japan VOICES ~未曾有の困難を越え、私たちが描く未来が、世界を変えていく。~
	経済産業省	日本の産業界の持続可能な開発への貢献
	新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)	NEDOの技術開発と世界への貢献
	国際協力機構(JICA) 北陸、RUM アライアンス	日本における自動車リサイクルシステム -自動車静脈産業による循環型社会の実現-
国際協力機構(JICA)九州国際センター	Fast! Easy! Cheap! 高倉方式 - 有機廃棄物のコンポスト化	

6月20日を「ジャパンデー」としてイベントを開催

「リオ+20」ジャパンパビリオンの多目的スペースでは、「リオ+20」本会議初日の6月20日(水)を「ジャパンデー」として、本会議参加者、報道関係者などを対象に、東北地方の復興と日本の多面的魅力をアピールするセミナーとイベント「ジャパンイブニング」が開催されます。各イベントの概要は下記の通りです。

<セミナー／概要>

- ◆開催日時 2012年6月20日(水) ジャパンデー
 【第一部】11:15 ～ 12:30 復興を通じた持続可能な社会づくり～日本の再生を世界とともに～
 GEA国際会議2011報告
 【第二部】12:45 ～ 13:35 東北の復興と持続可能な発展
 東北関係者等よりの報告
 【第三部】13:35 ～ 14:30 ディスカッション・総括
- ◆会場 「リオ+20」ジャパンパビリオン/多目的スペース
- ◆テーマ 東日本大震災からの復興・教訓 ～ 持続可能な開発の観点から～
- ◆主催 外務省 環境省

<ジャパンイブニング～TOHOKU FORWARD～／概要>

- ◆開催日時 2012年6月20日(水) ジャパンデー
 17:00 ～ 19:00 (16:30 開場)(招待制)
- ◆会場 「リオ+20」ジャパンパビリオン/多目的スペース
- ◆開催内容 東北三県(岩手県、宮城県、福島県)のPR
 東北の郷土料理を含む日本食の試食
 東北産日本酒の試飲
 ブラジルの日系人を中心とした和太鼓グループ「生(ショウ)」による演奏 など
- ◆主催 外務省
- ◆協力 岩手県 宮城県 福島県 国際交流基金
 ブラジル岩手県人会 ブラジル宮城県人会 ブラジル福島県人会
 リオデジャネイロ州日伯文化体育連盟



【イベントコンセプト】“TOHOKU FORWARD”

東北が「復興」に向け前に進んでいる姿を表現。東北の方々の忍耐強さ、希望を諦めない強靭さが“Forward(前へ、未来へ)”に込められています。

【揮毫】書家 高橋 卓也君(13才) 岩手県盛岡市出身、東日本大震災を経験。3歳のときに書いた「凧」がモントリオール国際芸術祭にて、史上最年少グランプリを獲得。

<高橋君からのコメント>

「太陽の如く燃え盛る『Tohoku』、復興というゴールへの『Forward』をイメージした。東北に光が射すよう思いを込めた。」

